

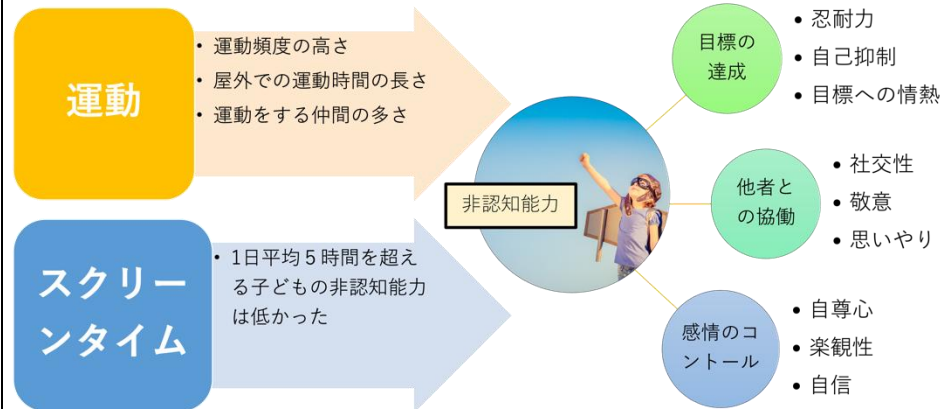
事業計画書

①団体名	特定非営利活動法人こうのさと																																								
②事業名	遊びの中で防災スキルと非認知能力を身につける。親子防災リーダープロジェクト																																								
③テーマ区分	番号：1 (地域防災活動の推進)																																								
④補助回数	*同一事業における補助回数(年数)について、いずれかにチェック <input type="checkbox"/> 1回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目																																								
⑤現状及び課題	<p>近年、共働き世帯の増加や、3つの間(空間・仲間・時間)の不足から子どもたちの外遊び体験の確保が難しくなっている。特にコロナ禍以降、子どもたちの外で遊ぶ時間が急激に減少し、2020年の平均ではおよそ35分と、2019年の平均61分と比べて極端に短くなっている。^{※1}</p> <div data-bbox="470 741 1321 1193"> <p>【図1】小中学生の生活時間の変化</p> <p>全体 (n=1000)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動</th> <th>2019 (%)</th> <th>2020 (%)</th> <th>2021 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自宅で過ごす時間</td> <td>10.9</td> <td>86.3</td> <td>2.8</td> </tr> <tr> <td>PCやスマートフォンを見る時間</td> <td>25.1</td> <td>72.9</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>動画を見る時間</td> <td>29.5</td> <td>67.2</td> <td>3.3</td> </tr> <tr> <td>ゲームをする時間</td> <td>34.8</td> <td>61.2</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>テレビの視聴時間</td> <td>40.4</td> <td>49.8</td> <td>9.8</td> </tr> <tr> <td>学校以外で勉強する時間</td> <td>40.3</td> <td>44.1</td> <td>15.6</td> </tr> <tr> <td>SNSをする時間</td> <td>63.4</td> <td>32.4</td> <td>4.2</td> </tr> <tr> <td>睡眠時間</td> <td>58.8</td> <td>21.7</td> <td>19.5</td> </tr> <tr> <td>屋外で遊ぶ時間</td> <td>67.1</td> <td>11.6</td> <td>21.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>■ 増えた ■ 変わらない ■ 減った (%)</p> </div> <p>「新型コロナウイルスによって変化した子どもの生活実態」に関する調査より転載 https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000002.000060256.html</p> <p>また、スマホやタブレットの普及と共にスクリーンタイムが増加し、子どもたちの生活習慣が劇的に変化するとともに室内遊び、一人遊び、遊びの画一化(創造性の欠如)の傾向に拍車がかかっている。</p> <div data-bbox="429 1453 1374 1984"> <p>写真はイメージです</p> </div>	活動	2019 (%)	2020 (%)	2021 (%)	自宅で過ごす時間	10.9	86.3	2.8	PCやスマートフォンを見る時間	25.1	72.9	2.0	動画を見る時間	29.5	67.2	3.3	ゲームをする時間	34.8	61.2	4.0	テレビの視聴時間	40.4	49.8	9.8	学校以外で勉強する時間	40.3	44.1	15.6	SNSをする時間	63.4	32.4	4.2	睡眠時間	58.8	21.7	19.5	屋外で遊ぶ時間	67.1	11.6	21.3
活動	2019 (%)	2020 (%)	2021 (%)																																						
自宅で過ごす時間	10.9	86.3	2.8																																						
PCやスマートフォンを見る時間	25.1	72.9	2.0																																						
動画を見る時間	29.5	67.2	3.3																																						
ゲームをする時間	34.8	61.2	4.0																																						
テレビの視聴時間	40.4	49.8	9.8																																						
学校以外で勉強する時間	40.3	44.1	15.6																																						
SNSをする時間	63.4	32.4	4.2																																						
睡眠時間	58.8	21.7	19.5																																						
屋外で遊ぶ時間	67.1	11.6	21.3																																						

スポーツ庁委託による学校法人順天堂の調査^{※2}によると子どもの外遊びの経験や一緒に遊ぶ友人の数の多さは、自制心、達成力、協働性などの非認知能力にポジティブな関連があることがわかっており、スクリーンタイムの増加はネガティブな関連があることが示唆されている。

OECDが定義する非認知能力とその影響要因

※参考資料より申請者作成



参考：令和4年度「幼児期からの運動習慣形成プロジェクト（保護者等の運動遊びに関する行動実態調査）」事業報告書 https://www.mext.go.jp/sports/content/20230414-spt_oripara-00002921_11.pdf
 経済協力開発機構(OECD)編者(2018)「社会情動的スキル-学びに向かう力」 <https://amzn.to/4idRf5h>

今まで台風の被害や地震災害の少なかった岡山県でも2018年には、西日本豪雨の水害に見舞われ、南海トラフ地震の発生も懸念されている昨今の状況である。

電気、ガス、水道、インターネットなど日常使用できるインフラが欠如する被災状況では、身近にある資源で暖を取ったり、食べ物を調理したり、怪我の応急処置などを行わねばならない。一般的な防災スキルが必要になるとともに、上記のような非認知能力が重要になることは自明であり、令和3年内閣府発表の「防災教育新時代の実現のための提言について」^{※3}の中でも非認知能力の育成が課題に挙げられている。

内閣府資料「防災教育新時代の実現のための提言について」
 において記載されている非認知能力の例



「防災教育新時代の実現のための提言について」より作成
<https://www.mext.go.jp/kaigisiryoy/content/000121141.pdf>

申請者は、2011年3月の東日本大震災発災2,3週間後、看護師として岡山大学病院から緊急医療支援に看護師として派遣された経験がある。岩手県の被害の大きかった陸前高田市、大船渡市で活動した。その際、震災後の二次災害の救急対応もしたが、搬送された方に一酸化炭素中毒が多かったことを聞いて驚いた。昔は、炭を炊いて暖を取ることが一般的であったが、エアコ

	<p>ンの普及、家の断熱性の高まりなどで使用することがなく、な り、炭を炊いた経験のない人が多かったであろう。換気が必 要なことには気がつかず室内、もしくは車内で一酸化炭素が充 満して意識を失い搬送されたケースがあった。核家族化が進 み世代間の交流が失われたこと、インフラの整った生活の中 で、野外の体験が失われたことなどがその理由として挙げら れる。こういった点からも体験を通じた学びの必要性を強く 感じている。</p> <p>正解が決まっている与えられた問題を解くなど、学業の評価 や試験の成績が示す認知能力だけではなく、自らが問題に ぶき資源を見つけて解決する力、問題を抱えたままでも生き 抜く諦めない力、周囲の人たちと協力する力などがそれに当 たるだろう。</p> <p>3つの間（空間・仲間・時間）の不足によって、子どもたち から体験が失われ、管理された安全な日常の中では生きる力 を養う機会も少なくなっているのではないだろうか。</p> <p>こういった環境の変化や防災の知識やスキルは、子どもを取 り巻く大人の考え方が大きく影響することから、子どもたち だけではなく親も理解して、家族で取り組んでいくことが必 要となる。</p> <p>また、子どもたちが参加することで、子ども同士が仲良くな り、初めて会う親同士も、子を介して関係性を築きやすくな ることも見込まれる。</p> <p>本事業を通じて、防災や災害時に限られた環境の中でも周囲 の人と協力しながら、被害を最小に抑え、生きることが諦め ない希望を持った親子を増やし、共に頼り合い助け合えるコ ミュニティをつくっていく。</p> <p>・参照情報 ※1「新型コロナウイルスによって変化した子どもの生活実態」に関する調査 - 近視予防事務局フォーラム https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000002.000060256.html ※2 令和4年度「幼児期からの運動習慣形成プロジェクト（保護者等の運動遊 びに関する行動変容調査）」事業報告書 - 学校法人順天堂 https://www.mext.go.jp/sports/content/20230414-spt_oripara-00002921_11.pdf ※3 防災教育新時代の実現のための提言について - 内閣府 https://www.mext.go.jp/kaigisiryo/content/000121141.pdf</p>
⑥事業目的	<p>防災知識や災害発生時後に必要となるスキルについて、体験 を通じて学んだ親子を増やし、災害発生時及び事後に、進ん で他の人々や集団、地域の安全に役立てる人を育成し、災害 に対応しやすい地域をつくること。</p>

<p>⑦事業内容</p>	<p>※備中県民局補助対象事業について、位置づけ（狙い）、概要、受益者（対象者）、実施地域、実施方法などを記載すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・位置付け（狙い） 「楽しさ」を盛り込んだ教育と親子で集える場づくりを行い頼りあい助け合える地域コミュニティをつくっていく。また、子どもの遊びの中に、防災や発災時の生きる力となる非認知能力を高めるきっかけがあることを明らかにし、子どもたちの主体性をより尊重する社会づくりの起点とする。 ・概要 火や水を使って遊べる冒険遊び場で、親子で防災や災害後に役立つ知識やスキルについて体験を通じて学ぶ。 ・受益者(対象者) 近隣の未就学児童（6歳～）、小中学生の子どもとその家族。 ・実施地域 倉敷市玉島 ・実施方法 当法人で管理しているスコレーパーク、約3,000m²の敷地にて防災や災害後に役立つ体験を通じて学ぶ講座やワークショップを開催する。告知はインターネット、SNSなどを通じて対象者に呼びかけ募集する。参加された方にアンケートを行い防災意識の変化や子どもの非認知能力を育成する習慣形成への影響について確認してまとめる。本年度からガイドブックを作成し、講座に継続した参加者に配布。PDFデータとして希望する備中地域の子育て応援施設に配布する。 <p>事業項目1. 遊びや行事の中で防災スキルを身につける講座やワークショップ 防災の専門家を講師に招き、どのような非認知能力の獲得につながるか目標をもったワークショップを開催する。 7/24(金) ラフティングのプロと学ぶ川の安全 7/30(土) 竹から作る、流しそうめん台と防災道具 8/20(木) 防災のプロと学ぶ！防災リュックの中身と「119」 9/23(水・祝) 風、土、水の流れを学ぶ！土砂崩れを防ぐ大地の再生WS 10/24(土) 断水に備える！みんなでチャレンジ井戸づくり 12/19(土) 野外調理&消火器の使い方</p>
<p>⑧事業の条件及びアピールポイント</p>	<p>*天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応 規模を縮小しての開催、オンライン講座やハンドブックの制作、配布などで対応する。</p> <p>先進性、先駆性、独創性 体験を通じた学習で防災や災害時に必要となるスキルや非認知能力（資質）が身に付くことの周知を拡げられる。</p> <p>備中地域への波及効果 表面的な防災グッズの選び方、使い方だけではなく、災害時に重要な自制心、達成力、協働性などの資質を子どもの頃から養う習慣づくりについて試験的に実施でき、その効果を評価できる。</p> <p>その他、団体の持つ専門性やノウハウ等 ・当法人は、子どもたちの主体性を育むオルタナティブスクールを運営しており、一般的な教える教育、管理型の教育とは異なる指導の方法やノウハウを培っている。</p>

	<p>・本事業の実施責任者である片岡は、2011年の東日本大震災にて、看護師として岡山大学病院から緊急医療支援活動に派遣され、被災2～3週間後の陸前高田市、大船渡市で活動した。2007年から2009年の間、青年海外協力隊として電気、ガス、水道などのインフラが整っていない発展途上国の貧困地域で2年間母子保健活動に従事した経験もある。</p> <p>・ワークショップや外部調整の担当である十川は、2018年の西日本豪雨の際、勤務していた小学校が被災地域の避難所となったことで避難所運営に携わり、在籍する児童とともに、避難者の受け入れや物資の管理にあたった経験がある。</p> <p>・当法人の支持者、サービス利用者にも今回の企画に関する需要があり、参加が見込まれる。</p>																					
<p>⑨今年度の事業による直接の結果 (アウトプット) 及びその評価指標・評価方法</p> <p>※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載</p>	<p>・事業項目1. 遊びや行事の中で防災スキルを身につける講座やワークショップ ワークショップや講座の参加者数、地域ボランティアの参加者数を評価基準とする。それぞれにアンケートを依頼、回収し、防災意識や災害後に必要となるスキル、非認知能力形成に関わる生活習慣の変化などを評価できるように行う。</p> <table border="1" data-bbox="426 875 1377 1081"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価方法</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. ワorkshop・講座参加者数</td> <td>延べ人数</td> <td>150人</td> </tr> <tr> <td>2. ボランティア参加者数</td> <td>延べ人数</td> <td>100人</td> </tr> <tr> <td>3. 大地の再生実施面積</td> <td>面積</td> <td>1,000m²</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	評価方法	目標	1. ワorkshop・講座参加者数	延べ人数	150人	2. ボランティア参加者数	延べ人数	100人	3. 大地の再生実施面積	面積	1,000m ²									
評価指標	評価方法	目標																				
1. ワorkshop・講座参加者数	延べ人数	150人																				
2. ボランティア参加者数	延べ人数	100人																				
3. 大地の再生実施面積	面積	1,000m ²																				
<p>⑩今年度に期待される成果・効果(短期アウトカム) 及びその評価指標・評価方法</p> <p>※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載</p>	<p>事業参加者</p> <p>子どもの非認知能力や各家庭の防災意識が高まり、防災の準備が行えるようになる。</p> <table border="1" data-bbox="426 1216 1377 1379"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価方法</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>子どもの非認知能力育成に関わる習慣の推移、参加親子の防災意識の推移</td> <td>アンケート</td> <td>講座やワークショップ参加者から100件の回答を得る。</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業実施団体</p> <p>オルタナティブスクール竹林のスコレーやスコレーパークの魅力の向上と地域住民とのより良い関係作り、団体への周知向上を図る。</p> <table border="1" data-bbox="426 1547 1377 1688"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価方法</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数</td> <td>利用者人数</td> <td>35名</td> </tr> <tr> <td>Instagramフォロワー数</td> <td>フォロワー人数</td> <td>2,500名</td> </tr> </tbody> </table> <p>備中地域</p> <p>子どもの主体性や体験の大切さの理解が進み、親子で学ぶ防災講座、体験及び防災ガイドブックの配布を通じて、更なるワークショップの需要を喚起し、地域における防災力の向上を図る。</p> <table border="1" data-bbox="426 1888 1377 1973"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価方法</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガイドブックの配布</td> <td>共有団体数</td> <td>10団体</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	評価方法	目標	子どもの非認知能力育成に関わる習慣の推移、参加親子の防災意識の推移	アンケート	講座やワークショップ参加者から100件の回答を得る。	評価指標	評価方法	目標	利用者数	利用者人数	35名	Instagramフォロワー数	フォロワー人数	2,500名	評価指標	評価方法	目標	ガイドブックの配布	共有団体数	10団体
評価指標	評価方法	目標																				
子どもの非認知能力育成に関わる習慣の推移、参加親子の防災意識の推移	アンケート	講座やワークショップ参加者から100件の回答を得る。																				
評価指標	評価方法	目標																				
利用者数	利用者人数	35名																				
Instagramフォロワー数	フォロワー人数	2,500名																				
評価指標	評価方法	目標																				
ガイドブックの配布	共有団体数	10団体																				
<p>⑪将来的に</p>	<p>事業参加者</p>																					

<p>期待される成果・効果 (中・長期アウトカム)</p>	<p>子どもの主体性や体験を通じた学びの大切さが理解され、子どもたちが自分の責任で自由な体験ができる場が増え非認知能力を培える環境が増える。</p>
<p>※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載</p>	<p>事業実施団体</p> <p>スコレーパークを用いた多様な体験を提供することで、団体のブランディングが行え、より広く活動の周知につながる。</p> <p>備中地域</p> <p>他の備中地域でも目的を共有する行事が開催され地域活性化防災意識の高まりが促進される。</p>
<p>⑫事業継続化に向けた取組及び事業展開の予定(資金確保の見通し等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業へ周知を広げ協賛を増やす。 ・一般の方へ活動を周知して寄付者を増やす。 ・流しそうめん台や竹の遊具の設置などを通じて収益化を図る。 ・ワークショップや講座を実施、改善して助成期間終了後に有料で開催する。

日 程 計 画 表

年月	事業内容	場所	規模等
2026 年 4 月	・年間スケジュールを作成、広報準備。 ・教材の開発設計会議	倉敷市	
2026 年 5 月	・年間講座・ワークショップに関して告知を開始。	倉敷市	
2026 年 7 月	7/24(金) ラフティングのプロと学ぶ川の安全 7/30(土) 竹から作る、流しそうめん台と防災道具	倉敷市玉島 倉敷市玉島	参加者 30 名 参加者 30 名
2026 年 8 月	8/20(木) 防災のプロと学ぶ! 防災リュックの中身と「119」	倉敷市玉島	参加者 30 名
2026 年 9 月	9/23 (水・祝) 風、土、水の流れを学ぶ! 土砂崩れを防ぐ 大地の再生 WS	倉敷市玉島	参加者 30 名
2026 年 10 月	10/24(土) 断水に備える! みんなでチャレンジ井戸づくり	倉敷市玉島	参加者 30 名
2026 年 12 月	12/19(土) 野外調理&消火器の使い方	倉敷市玉島	参加者 30 名
2027 年 1 月	・ガイドブックの印刷		1
2027 年 2 月	・参加者振り返り交流会&防災親子リーダー表彰式 ・ガイドブックのデータ配布	倉敷市玉島 備中地域	参加者 30 名 10 団体

<記入上の注意事項>

- 1 事業実施年度の年間スケジュール案を記入してください。
- 2 「場所」欄は、想定される実施場所を記入してください(例:〇〇市文化センター、△△市内)。
不明な場合、特定できない場合等は未記入で構いません。
- 3 「規模等」欄は、参加予定人数、印刷部数等数量的に想定される量を記入してください。不明な場合は未記入で構いません。